

第9回 日常診療経験交流会

主催：大阪府保険医協会・大阪府歯科保険医協会

フレイル新局面

7月9日

申込受付中

下記2次元コードよりお申込みください

全体時間 9:30~16:00

開催場所 保険医会館

(大阪市浪速区幸町1-2-33)



—医科・歯科共有認識でコロナ禍に学ぶ—

●記念企画・シンポジウム【午後1時～】 ☆WEB視聴可



基調講演

旭区 松本診療所 **松本 一生** (まつもと いっしょう)氏

- 松本診療所ものわすれクリニック理事長・院長 ●日本認知症ケア学会総務担当理事
- 日本老年精神医学会評議員・指導医 ●日本精神神経学会指導医・専門医・認知症診療医
- 精神保健指導医・歯科医師 ●認知症の人と家族の会会員

内容

- シンポジスト基調報告30分、シンポジスト15分×3人
- 相互討論、フロア発言、質疑応答、まとめ 95分

コーディネーター

枚方市・循環器内科 **松尾 信郎**氏
松尾医院

シンポジスト

中央区・歯科 **林 宏和**氏
林歯科医院

東淀川区・精神科 **清水 聖保**氏
清水クリニック

大阪狭山市・内科 **長尾 典尚**氏
長尾クリニック

私どもの大阪におけるフレイルに対する取り組みは、2016年に遡る。約9年間摂食嚥下障害の臨床、研究に動んだ新潟大を退職した2016年に大阪府歯科保険医協会で、私の恩師である新潟大学医歯学総合研究科・摂食嚥下リハビリテーション学分野教授・井上誠先生が「摂食嚥下障害に関わる歯科医の役割」という演題でご講演された際、お手伝いさせて頂いたたたきかけで、その時受講された若手歯科医師数名から声かけていただき、2017年に「歯科医療を通じて日本の医療課題に挑む」という理念を掲げ、若手歯科医師の勉強会の立ち上げから関わり、活動してきた(コロナ禍に入り活動休止中)。当時、歯科のスタディグループとしては珍しい、認知症サポーター養成講座や歯科におけるオーラルフレイル対策として重要な「口腔機能低下症」が保険収載される前に実技を含めた講習会も開催し、さらには、遠隔医療やIR/AR Patient Experienceといった、最近医科でも取り組まれているテーマにも取り組んできた。

昨今、歯科においては、従来の「治療中心型(歯の形態の回復、機能回復)」から「治療・管理・連携型(口腔機能の維持・回復、歯の形態の回復)」へと押し進められ、2018年に口腔機能

シンポジスト 林宏和氏 抄録

歯科の専門性から考えるフレイル対策と医科歯科連携について

には7つの診断項目(①口腔衛生状態、②口腔乾燥、③咬合力低下、④舌口唇運動機能低下、⑤低舌圧、⑥咀嚼機能低下、⑦嚥下機能低下)がある。これらの検査を行うことは簡単だが、陽性項目が認められた場合、単純に機能訓練を行えば解決するものではないからである。咬合喪失など歯科的問題のみに起因した結果なのか、他に脳血管疾患や神経筋疾患など全身疾患や薬剤、栄養状態、生活環境などの要因が絡んでいないか鑑別する必要がある、そのためには、医科との連携や、患者の生活機能の評価が必要になってくる。

では、歯科診療所がフレイル新局面においてま

ず行うべきことはなにか。それは、65歳以上の患者層への歯の形態回復と形態回復を行う前後での口腔機能評価である。各年代別の外来受療率は、一般診療所(医科)は高齢になるにつれ増加する一方で、歯科受療率は65~74歳をピークに低下している。歯の形態の維持・回復や歯周疾患の予防が、口腔機能の維持、回復に寄与するだけでなく、身体機能及び高次脳機能の維持に関係していることが明らかになってきていることから考えると、歯科診療所を受療できていない高齢者の歯の形態回復を図ることが、まずとるべき最短の道と考えている。従来の歯の形態の回復は、口腔機能を維持・回復させるために最も有効なリハビリテーションだからである。そこに気づいていただくためにも治療前後の口腔機能評価は重要と考えている。

目か認められた場合、単純に機能訓練を行えば解決するものではないからである。咬合喪失など歯科的問題のみに起因した結果なのか、他に脳血管疾患や神経筋疾患など全身疾患や薬剤、栄養状態、生活環境などの要因が絡んでいないか鑑別する必要がある、そのためには、医科との連携や、患者の生活機能の評価が必要になってくる。

では、歯科診療所がフレイル新局面においてま

ず行うべきことはなにか。それは、65歳以上の患者層への歯の形態回復と形態回復を行う前後での口腔機能評価である。各年代別の外来受療率は、一般診療所(医科)は高齢になるにつれ増加する一方で、歯科受療率は65~74歳をピークに低下している。歯の形態の維持・回復や歯周疾患の予防が、口腔機能の維持、回復に寄与するだけでなく、身体機能及び高次脳機能の維持に関係していることが明らかになってきていることから考えると、歯科診療所を受療できていない高齢者の歯の形態回復を図ることが、まずとるべき最短の道と考えている。従来の歯の形態の回復は、口腔機能を維持・回復させるために最も有効なリハビリテーションだからである。そこに気づいていただくためにも治療前後の口腔機能評価は重要と考えている。

第9回 日常診療経験交流会 プログラム ▶2023年7月9日(日) ▶9:00~16:00 ▶大阪保険医会館	9:00~	開場・受付開始 ⇒1階
	9:30~	▶主催者あいさつ ▶留意事項説明
	9:40~11:40	第1分科会「日常診療における工夫と実践(外来)」【組合5階・M&Dホール】 第2分科会「日常診療における工夫と実践(在宅)」【2階・第1会議室】 第3分科会 自由課題【組合3階・会議室】 第4分科会「日常診療における工夫と実践(歯科)」【5階・5階会議室】
	11:40~13:00	昼休憩(参加者の方はご自由に取っていただきます)
	13:00~14:20	記念企画・シンポジウム
	14:20~15:45	意見交流・フロア発言・質疑応答
	15:45~16:00	▶副実行委員長あいさつ【組合5階・M&Dホール】